

■参加申込み方法 締切日: 京都 5月29日(月) 東京 6月12日(月)

参加ご希望の方は、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス、参加希望会場を明記の上、下記宛に、添付ハガキ、FAX、またはホームページにてお申込み下さい。後日、「参加証」をお送り致しますので、シンポジウム当日に受付までお持ち下さい。ホームページでお申込みをされた場合は、ご登録後に送信される登録完了通知メールが参加証となりますので、印刷してお持ちください。

※申込み多数の場合、会場定員に達した時点で申込みを締め切らせていただきますので、予めご了承ください。
※このシンポジウムの会場風景は、記録用にビデオ編集され、後日DVD化して広く配布されます。また当研究所のホームページにも掲載される予定です。ご了承ください。

← FAXでお申込みの場合は、この方向でご送信下さい。 (株) インターグループ内 国立環境研究所 公開シンポジウム 2006 登録事務局
FAX: 03-3597-1097
http://www.nies.go.jp/sympo/2006/
E-mail: nies2006@intergroup.co.jp

当シンポジウムにご参加を希望される方は、以下の項目をご確認の上、お申込みください。

- ご記入いただきました個人情報は、当シンポジウムの運営管理の目的にのみ利用させていただきます。
- ご記入いただきました個人情報は、当シンポジウムの主催者である独立行政法人 国立環境研究所に提供いたします。
- ご記入いただきました個人情報は、必要なセキュリティ対策を講じ、厳重に管理いたします。
- お申し込みいただいた方には、次回開催予定のシンポジウムに関するご案内を送付させていただきます。但し、ご要請があれば、すみやかに中止いたします。

<お願い>グループでご参加の場合は、恐れ入りますが本申込書をコピーの上、お一人ずつお申込み下さい。

国立環境研究所公開シンポジウム 2006

参加申込書 **アジアの環境と私たち**
— もう無関心ではられない —

(フリガナ)	年齢	性別
お名前	歳	男・女
連絡先住所	次のいずれかに○印の上、ご記入下さい。 (①勤務先 ②自宅) 〒□□□-□□□□	
TEL	FAX	
E-mail		
参加希望会場	①京都会場(6月4日) ②東京会場(6月18日)	
職業	①教育・研究 ②行政 ③団体職員 ④会社員 ⑤自営業 ⑥主婦 ⑦学生 ⑧無職・その他	

このシンポジウムを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

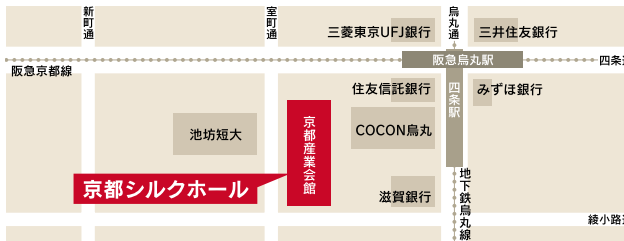
- ①ポスター ②ダイレクトメール(郵送) ③ダイレクトメール(Eメール)
- ④国立環境研究所ホームページ
- ⑤その他のホームページ(サイト名:)
- ⑥メーリングリスト(ML名:)
- ⑦新聞(新聞名:)
- ⑧雑誌(雑誌名:)
- ⑨その他()

情報送付について

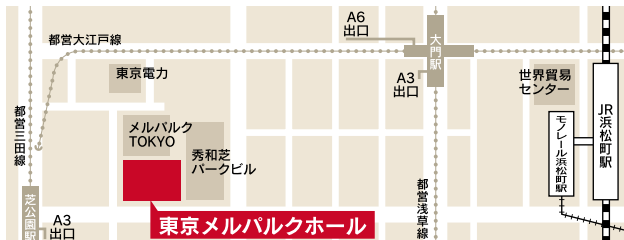
今後、国立環境研究所からの催し物のご案内を
 希望する 希望しない

■ポスターセッション

- 環境科学に関する疑問に対してわかりやすく研究成果を発信する
- 2050年からのバックキャスティング
— 脱温暖化社会に向けた日本、アジア、世界の挑戦 —
- AIM (アジア太平洋統合評価モデル) プロジェクトを通じたアジアの国々との共同研究
- 人工衛星による二酸化炭素観測データの炭素循環研究への利用
- 温室効果ガスインベントリーアジアで経験を分かち合う
- 都市・地域における炭素循環のマネージメント
- 建築物における地球温暖化対策—技術開発と対策効果検証の取り組み—
- 中国東北部における都市大気汚染の現状と健康への影響
- 東アジアの大気環境を常時監視する
— 沖縄辺戸岬大気・エアロゾル観測ステーション —
- 地衣類から大気汚染を探る—継続的な分布調査と遺伝的多様性による評価—
- アジアにおける微細藻類—有効利用と環境問題—
- 雨が降ると東京湾はどうなるか?—降雨後の水質変化—
- ダイオキシンを迅速低廉にはかる—バイオアッセイの導入—
- メダカを用いた環境影響評価
- 卵の形から鳥類集団の異変を察知する
- 森林の分断化がまねく林床植物の衰退—サクラソウを例に—
- 飲料容器のごみはなぜ増えている?—消費者も無関心ではられない—
- 子どもの肺換気量に関する研究—化学物質曝露評価のためのツールとして—
- 化学物質の環境リスク評価—さらなる環境施策の検討に向けて—
- 未来のために環境試料を長期保存する—環境試料タイムカプセル—
- 知りたい環境情報を見つけるには?



■京都会場 2006年6月4日(日) 12:00~17:00
京都シルクホール(定員700名)
 〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入ル 京都産業会館8階
 TEL: 075-211-8341
 【交通】地下鉄烏丸線「四条駅」・阪急京都線「烏丸駅」26番出口より徒歩3分



■東京会場 2006年6月18日(日) 12:00~17:00
東京メルバルクホール(定員1,200名)
 〒105-8582 東京都港区芝公園2-5-20 TEL: 03-3459-5501
 【交通】JR「浜松町駅」より徒歩10分 都営三田線「芝公園駅」A3出口より徒歩2分 / 都営浅草線・大江戸線「大門駅」A3・A6出口より徒歩4分

<お問い合わせ>
 国立環境研究所 公開シンポジウム 2006 登録事務局
 〒105-0003 東京都港区西新橋1-7-2 虎ノ門高木ビル(株)インターグループ内
 TEL: 03-3597-1129 FAX: 03-3597-1097
 http://www.nies.go.jp/sympo/2006/



— もう無関心ではられない —
アジアの環境と私たち



独立行政法人

**国立環境研究所
 公開シンポジウム2006**

2006年6月4日(日) 12:00~17:00

京都シルクホール

2006年6月18日(日) 12:00~17:00

東京メルバルクホール

**入場
 無料**



— もう無関心ではられない —

アジアの環境と私たち

■ ぐあいさつ

私たちの研究所は、創立33年目を迎えました。この間、身近な環境問題から地球規模での環境問題までを視野に入れ、原因の解明と解決策を追求しつづけています。2001年に独立行政法人になり5年が経過し、本年4月から第2期目の中期計画期間の研究を開始したところです。

これからの5年間、私たちは「地球温暖化」「循環型社会」「環境リスク」「アジア自然共生」の4つの重点研究プログラムを展開します。本年の公開シンポジウムでは、「アジア自然共生」に関連が深いテーマを選びました。

日本でもアジアのどの国でも、人びとはさまざまな環境問題に直面しています。しかし、多くの環境問題には国境がありません。大気も水もさまざまな物質を含みながら広域を移動しますし、人間自身も貿易品をはじめとする「物」も長距離を移動します。とくに経済成長が著しいアジアでは、これらの移動量は急増をつづけています。

私たち日本人は、アジアのことをもっと知らなくてはなりません。歴史的に関係が深く文化に共通性が高いだけでなく、さまざまな面で環境を共有しているからです。このシンポジウムは、アジアのなかの日本という視点から、人びとが健康で安全・安心な生活を送ることができる環境について、皆様と一緒に考えることを目指しています。

私たちは、皆様に講演を聴いていただくこと、そしてポスター発表を見ながら皆様と会話することを楽しみにしています。私たちが日夜行っている環境研究は、その成果を多くの方々に知っていただき共有されて初めて大きな意味をもつからです。

皆様に私たちの研究活動をご理解いただくとともに、幅広いご意見をいただきたく、本シンポジウムへのご参加を心よりお待ちしております。

独立行政法人国立環境研究所 理事長 大塚柳太郎

■ プログラム

12:00~13:00	ポスターセッション
13:00~13:20	基調講演…………… 理事長 大塚柳太郎
13:20~14:00	<講演1>…………… 寺園 淳 アジアを巡る私たちのごみ —日本とアジアで資源の循環を考える—
14:00~14:40	<講演2>…………… 谷本浩志 国境を越える対流圏オゾン —グローバル化する大気汚染の現在と将来—
14:40~14:55	休憩
14:55~15:35	<講演3>…………… 唐 艶鴻 「世界の屋根」チベット高原から地球温暖化を考える —草原はどのくらい炭素を蓄積しているか—
15:35~16:15	<講演4>…………… 小野雅司 マラリア再考（再興） —環境との関わり、日本への影響—
16:15~16:20	閉会挨拶
16:20~17:00	ポスターセッション

<キリトリ線>

郵便はがき

1 0 5 - 0 0 0 3

お手数ですが
50円切手を
貼ってお出し
下さい

東京都港区西新橋1-7-2 虎ノ門高木ビル
(株)インターグループ内

国立環境研究所
公開シンポジウム 2006 登録事務局 行

